

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	20 - デ学 - 4
-----------------	-------------

平成20年度配分 研究成果の概要

研究名	生産造形学科教育領域の見える化の研究				
配分を受けた特別研究費	デザイン学部長 特別研究費				890 千円
研究者氏名 (代表者)	学部名 (研究科名)	学科名	職	氏名	共同研究の 場合の分担
	デザイン	生産造形	准教授	迫秀樹	総括推進
共同研究者	デザイン	生産造形	教授	田邊英隆	調査検討
	デザイン	生産造形	教授	黒田宏治	調査検討, 編集デザイン
	デザイン	生産造形	教授	佐井国夫	調査検討, 編集デザイン
	デザイン	生産造形	教授	坂本鐵司	助言, 情報提供
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	第 号 ( 年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法: 研究の成果(小冊子)を高 校・美術予備校へ送付		発表日 (発表 予定日)	平成20年7月～	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

生産造形学科は、インダストリアルデザインを教育領域として設置・運営されるが、製品(プロダクト)のデザイン、ものづくりのデザインと、やや狭く、即物的に捉えられてきたようなところがある。その結果、入学者(受験生)確保等に際して、機会損失が生じた可能性も無しとは言い難く、早急に改善すべきところと考える。そこで本研究では、平成21年度カリキュラム改正も踏まえ、生産造形学科の備える領域の広がり即した教育運営を構築するとともに、その内容を対社会的に見える形で提示することを目的とする。

(研究の実施方法等)

1. 教育運営の調査検討

次の項目について調査し検討することにより生産造形学科の特性を抽出した。

- ・生産造形学科新カリキュラムにおけるデザイン領域、専門領域
- ・他大学(デザイン系, 美術系, 工学系)の教育環境
- ・入学生の出身地
- ・授業以外での教育関連活動
- ・卒業生の就職先

次の卒業生座談会を行い、要求される教育内容について検討した。

- ・浜松地区1(メーカ系), 浜松地区2(グラフィック系), 浜松地区3(小規模, 独立系)
- ・東京地区1(デザイン全般系), 東京地区2(留学経験有り)

なお、これらの座談会の内容については実施記録としてA4判で全38ページの冊子にまとめた。

2. 小冊子の企画制作

上記の検討結果を踏まえ、生産造形学科教育領域、運営の見える化を図った。具体的には、全24ページの小冊子(パンフレット)を2000部制作し、それをオープンキャンパス時に配布、さらに関係各方面へ送付した。

(得られた成果等)

1. 小冊子配布による生産造形学科のアピール

- ・オープンキャンパスで配布、高校や美術予備校へ送付することにより、生産造形学科の教育領域や運営内容について周知することができた。
- ・在学生にも配布することにより、自らの学習内容の再認識や卒業後のイメージ作成に繋がった。

2. 次のようなFD的観点における成果も認められた。

- ・デザイン領域の図式化、他大学との教育環境比較、授業以外の教育関連活動の抽出などにより、各教員が学科の特性を再認識した。
- ・卒業生の座談会を開催し、これまでの教育についてヒアリングしたことにより、将来の教育環境を再構築する際の基礎データとして蓄積された。